

茂木健一郎さんと柳家花緑さんのトークショー「そのとき、落語は、脳内で」



茂木さんが会場にマイクを向けると、鶴住居町の花輪さんが「落語を子どもたちに聞かせたい」とお願い。花緑さんは「また話題に来ます」と応じました。

危機対応学シンポジウム 地域の危機対応学－中間報告－

8月25日 [チームスマイル・釜石PIT]

危機対応研究センター（東京大学社会科学研究所・市）は、昨年度から実施している、東日本大震災とその前後の危機対応に焦点を当てた調査の中間報告を行い、関係者をはじめ市民など約50人が参加しました。釜石の高校、経済、政治、社会、文化、防災など調査テーマは幅広く、総勢30人の研究者が調査研究しています。この調査研究は2019年度まで実施され、年に3回程度、成果の一端を紹介するイベントが開催される他、最終的には成果を『地域の危機対応学（仮）』として出版する予定です。



人によって危機の捉え方が全然違うのではない
かなど、活発に意見交換が行われました



操縦席からの眺めを楽しみました

新造巡視船「きたかみ」一般公開

8月26日 [釜石市魚市場]

今年3月、旧巡視船「きたかみ」の老朽化に伴い、釜石海上保安部に就役した新巡視船「きたかみ」が、「海の日」にちなんだ事業の一環として一般公開されました。釜石への新巡視船の配属は67年ぶり。この日は、約350人が訪れ、防災対策や密漁対策などのための最新鋭の装備が整った巡視船を見学しました。



楽しげなクルーズにカモメも付いて来ました（小型旅客船）

釜石湾に観光船が走る懐かしい風景がよみがえりました

8月11日・12日は水中観察船「ハーモニー」。26日は小型旅客船（市の観光船モデル事業）が釜石大観音や世界で一番深い防波堤としてギネス世界記録をもつ釜石港湾口防波堤など、ガイド付きで釜石湾内を巡りました。水中観察船には11便で約590人、小型旅客船には2便で約50人が乗船。東日本大震災で被災し解体された、観光船「はまゆり」のガイドを務めた千葉まき子さんによる、懐かしいアナウンスが船内に響き、家族連れなどが海の風、海から見える景色など約1時間のクルーズを楽しみました。はしゃぐ子どもの声の他、観光船の復活に期待する声も聞かれました。



船底から海中がのぞけます（水中観察船）

発掘現場で土器を拾ってみよう

8月3日 [屋形遺跡（唐丹町大石）]

小佐野公民館と釜石中学校が協同して、屋形遺跡について学ぶ事業が開催されました。参加した同中総合文化部の生徒16人は、市教育委員会の文化財担当者から指導を受け、実際に発掘作業を体験。15分ほどの作業で、縄文式土器のかけらなどが次から次へと出土しました。その中で、1年の工藤麻純さんが貴重な垂れ飾り（縦5cm、横2cm、厚さ5mm）を発見。身分の高い人などが付けていたと考えられ、文化財担当者によると、この場所にはない石で、他の地域と交流があったことを示すものとして、価値が高いとのこと。

※屋形遺跡は県内有数の貝塚が見つかるなど、学術的価値が高く、国指定史跡を目指しています



工藤さんは「びっくりした。見つけて嬉しい」と思ひぬ発見を喜びました

第2回オープンウォータースイミング2018根浜

8月5日 [根浜海岸特設会場]

一昨年の希望郷いわて国体で正式競技となったことから始まった釜石のオープンウォータースイミング。あいにくの雨をものともせず、自然の海を舞台に、500mから5kmの各種目でタイムを競いました。根浜大会は9月の「福井しあわせ元気国体2018」の同競技岩手県代表選考レースも兼ねており、男子は桑添陸選手、女子は及川美翔選手が代表に決まりました。



雨をものともしない選手のパワフルな泳ぎ

東日本大震災物故者納骨式

8月6日 [大平墓地公園内]

震災で犠牲となり身元が分からぬご遺骨は、これまで仙寿院に安置され、供養されてきました。身元不明者納骨施設整備検討委員会で議論を重ね、7月末に東日本大震災物故者納骨堂が完成。今回、納骨されたご遺骨（6柱、部分4柱）は、ここに恒久的に安置され慰靈されます。納骨堂に刻まれた「わすれない」の文字には、震災による教訓の伝承と、ご遺骨が家族のもとへ帰れるようにとの願いが込められています。



それぞれの思いを胸に献花する参列者



釜石湾を彩る花火

迫力満点の水中花火

釜石納涼花火2018

8月12日 [釜石湾]

釜石の夏の風物詩である花火大会は、風が少ない絶好の花火日和の中、開催されました。今年は、例年の3倍となる約3,000発の花火が打ち上げられ、集まった観客は夜空を彩る花火に歓声を上げました。



ちようちん明かり、やぐら、太鼓の音に笑顔の輪が加わります

松原町内会60周年 松原地区盆踊り大会

8月16日・17日 [松原町]

松原町内会は、設立60周年を機に、16年ぶりとなる盆踊りを開催。「釜石小唄」「三陸港音頭」「炭坑節」などの曲がかかると、地域の人や帰省した人など、子どもからお年寄りまで幅広い世代が踊りの輪に加わりました。松原町は、現在83世帯約130人と震災前の3分の1の規模に減少。最近では、復興住宅に住む人なども増え始め、課題となっているコミュニティーの再生にも、この盆踊りを生かしたい考えです。地域の皆さんは「盆踊りは本当に久しぶりで懐かしい」と声をそろえて、復活を喜びました。